

令和6年度 第4回 経営協議会報

日 時 令和7年3月13日（木） 13:30～15:50（オンライン会議）

令和7年1月16日開催の令和6年度 第3回 経営協議会議事要旨（案）および、2月書面会議議事要旨（案）について確認があり、了承された。

審 議 事 項

（1）ビジョン計画及び年度計画の変更について

木暮理事から、資料に基づき提案説明があった。
学外委員との間で以下のような質疑応答があった。

○学外者から見ると表記が分かりにくいと感じる。
→変更となった経緯や、内容が分かるような文言を加える。

審議の結果、指摘のあった箇所の修正内容について、学長一任として了承された。

（2）令和7年度学内当初予算（案）について

大城理事から、資料に基づき提案説明があった。
学外委員との間で以下のような質疑応答があった。

○運営費交付金、ミッション実現加速化経費が減っている。今後の収支改善が喫緊の課題である。次年度においては、さらなる収入の増加が見込めるような改善案について、様々な議論がされていると思うが、次年度は無理にしても令和8年度には、実際に成果として出てくる見込みはあるのか。

→令和8年度以降を見据え、宿舍の統廃合や売却、病院跡地の活用、新病院整備などを通じて収支均衡を図る予定。

○民間同様、余剰資金がなければ賞与支給や人事院勧告への準拠は難しいのではないか。

→本学は一部準拠とした。完全準拠したのは全国で約38大学にとどまり、賞与を支給しなかった大学もあったと聞く。来年度は文科省等からの補填がなければ準拠は困難と見込んでいる。

○病院の経営改善について、中期的な経営計画を提示してもらい収益性を見込みを今後探っていきたい。

→病院については、20年先を見据えたシミュレーションを行いながら、何をすべきかを議論している。しっかりとプランを立てていきたい。

○授業料の値上げについての議論は進めているのか。

→現時点で具体的に検討していない。県内の大学進学率が全国最低水準にある中、授業料が私学に対して安いことは重要な役割を果たしており、安易な値上げは難しいと考えている。ただし、大学運営の持続性という観点から、今後は総合的な検討が必要になる可能性もある。

審議の結果、原案のとおり了承された。

報 告 事 項

（1）令和6年度決算の見込みについて

大城理事から、資料に基づき報告があった。

（2）上原キャンパス移転の進捗状況について

大屋理事から、資料に基づき報告があった。

懇 談 事 項

経営協議会委員としての振り返りと今後への期待について

表題の件について、委員から以下のような発言があった。

- 変革の激しい時代に、どう大学を維持していくのか、新体制の中でも考えてほしい。
- 中期将来ビジョンの策定や RX 等の推進による働き方改革の基盤整備の進展を高く評価している。今後は沖縄の将来像に対しても、大学の人材育成での協力・貢献できることが多くあると感じている。
- 法人評価制度が年々厳格化しており、少子化の進行なども背景に、今後は定員確保など深刻な課題に直面することが予想される。琉球大学には、東アジア圏との地理的な近接性という利点を活かし、戦略的に留学生の受け入れを進めることで、国際的な存在感をさらに高めていけるのではないかと期待している。